

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 (特非)国際日本語コミュニケーション研究所

1 事業の趣旨・目的

平成22年2月、当研究所の主催で「外国人の子どもたちの学習支援を考える市民フォーラム」を開催した。学校・地域ともすぐれた日本語指導者の確保に悩んでいる姿が浮き彫りになった。他方、団塊世代の経験豊かな教員が退職期にあることから、各地の学校や地域の日本語教室でご活躍いただけることを期待して教員経験者対象の日本語指導者研修会を開催した。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
第1回 7月28日 (水)	文化外国語 専門学校 D38a	柏崎 秀 子 黒川 次 郎 小林 幸 江 手柴スエ 子 渡邊晋太 郎	・研修目標 ・研修期間 ・学習項目 ・カリキュラム ・講師 ・周知方法	→初期・移行期指導ができる →9/25(土)～11/13 (土) →事項参照 →現状と課題/第二言語としての日本語/移行期の指導/認知・言語発達過程に応じた指導/教案作成/外国人児童の指導例/見学/実習/まとめ →柏崎、小林、手柴、渡邊を軸に現在子どもの日本語指導に当たっている者数名で担当 →ホームページ/都内国際交流センター/渋谷区教育委員会/渋谷区・新宿区・世田谷区・港区・杉並区など近隣小中学校
第2回 11月13日 (土)	文化外国語 専門学校 D38a	黒川 次 郎 小林 幸 江 手柴スエ 子 渡邊晋太 郎	・実施報告 ・実施評価	①受講者:受講者12人(教員経験者8人、地域の日本語教育経験者2人、その他2人)/修了者12人/修了条件は、必修・選択必修科目の8割以上に出席し、修了レポートを提出した者 ②カリキュラム:別紙1参照 ①受講者の評価:講義課目、見学、実習とも実践的

			<p>実施報告書の 内容項目と執筆分 担</p> <p>次回運営委員会 開催の必要性</p>	<p>で大変よかった。特に見学 と実習は、他所では経験で きないほど実践的で直ぐ役 に立つことだった。</p> <p>②講師側の評価：フォーカ スをはっきり示して指導でき たので伝えるべき点を過不 足なく伝えることができた。</p> <p>③カリキュラム構成：教員 経験者にとってはコンパクト で無駄の無いカリキュラム だったと評価された。また受 講者の殆どが教員経験者 であることから「教案作成」 は必修にする必要なしと考 え、オプションにしたが、7 割以上の受講者が参加し、 それが後の実習に大変役 立ったと評価していた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 企画の動機と狙い(渡 辺) ○ 外国人児童生徒の日 本語教育の現状・課 題・展望(渡辺) ○ 子どもの日本語指導の 考え 方(小林) ○ 子どもの認知・言語能 力発達に応じた指導 法(柏崎) ○ 子どもの日本語指導実 践例(手柴) ○ 実習指導(手柴・海原・伊 藤) ○ 評価 ○ 修了者の活用促進(渡 辺) ○ 「生活者としての外国 人」の日本語教育とし て当研究所は次に何 を目指すか (渡辺) ○ 「必要なし」で意見一 致。これにより第3回 目の運営委員会はキ ャンセルとなった。
--	--	--	--	--

【写真】

第1回運営委員会(7月28日)

第2回運営委員会(11月13日)



3 養成講座の内容について

- (1) 養成講座名 退職教員及び退職準備教員向け子どものための日本語指導者養成研修
- (2) 養成講座の目標 団塊世代の経験豊かな教員経験者に、外国人児童生徒の日本語及び教科の指導を引き受けていただけるよう、日本語初期指導・移行期指導の知識・技術を学んでいただくこと
- (3) 受講者の総数 12人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
- (4) 開催時間数(回数) 30時間 (10回) 他に「教案作成の作法と演習」1回(3時間)を教案作成に不慣れな受講者のために自由選択科目として実施
- (5) 参加対象者の要件 退職教員及び退職準備教員を中心に、地域で日本語指導に当たっている人たちも一部受け入れた
- (6) 受講者の募集方法 ①チラシの配布→渋谷区、新宿区の小中学校約100部、退職教職員連絡協議会事務局50部、渋谷区教育委員会10部、東京ボランティア市民活動センター(飯田橋)50部、凡人社30部 ②渋谷区子ども日本語教室指導員10人(5人は退職または現役の小学校教員)の口こみ ③当研究所ホームページ
- (7) チラシ 別添
- (8) 研修会場 ①講義科目は、(学)文化学園 文化外国語専門学校内の講義室 ②見学及び実習は、渋谷区商工会館(渋谷区日本語子ども教室の会場)
- (9) 使用した教材・リソース

〈主教材〉:各講師が用意した書き下ろし教材

- ①「外国人児童・生徒の日本語教育の現状・課題・展望」…渡邊晋太郎
- ②「子どもの日本語指導についての考え方～第2言語としての日本語、移行期の指導を中心に」…小林 幸江
- ③「子どもの認知言語発達の過程と発達に応じた学習指導」…柏崎 秀子
- ④「意欲的な学習を支援するための留意事項」…柏崎 秀子
- ⑤「子どもの日本語指導実践例」…手柴スエ子、海原佳世子
- ⑥「教案作成の作法と演習」…渡邊晋太郎、伊藤 正子
- ⑦「総合評価会資料」…渡邊晋太郎

〈補助・実習教材〉

- ①「ひろさんの たのしい にほんご 1(根本 牧、屋代瑛子/凡人社)」p
・指導者の方へ…p3～5
・8課「あれは すべりだいです。」p23～25
・23課「きのう えみさんの うちへ きました。」p68～70
- ②「ひろさんの たのしい にほんご 2」教師用指導書(遠藤宏子、屋代瑛子/凡人社)
・「指導者の方へ」…p2～3

- ・58「よしお君のうちのげんかんの前にいつもくろい犬がいます」
p33～37
 - ・79「勉強が 終わったら お風呂に はいりなさい。」・・・p105～118
 - ・文型練習帳（根本 牧、屋代瑛子/凡人社）
 - ・ひらがな・かたかな・かんじ れんしゅうちょう(根本 牧、屋代瑛子/凡人社)
- ③ 国語教科書6年上(教育出版)「川とノリオ」・・・p78～80

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
9月25日 10:00～ 13:00	◆ 子どもの教育の現状・課題・展望 ／①日本語教師の専門能力の開発②戦後の日本語教育③子どもの日本語教育を取り巻く状況④子どもの学習支援の標準化が進まない背景	国際日本語コミュニケーション研究所副理事長 渡邊 晋太郎	12名
9月25日 13:45～ 16:45	◆ 第二言語としての日本語習得 ／●年少者をめぐる日本語教育①年少者の背景と日本語教育②年少者に対する日本語教育の流れ●年少者に対する日本語教育①何を教えるか②どう教えるか→初期指導、移行期指導 ◆ 移行期の日本語指導 学習日本語／①調査結果②移行期～ポスト移行期指導上の留意点	東京外国語大学教授 小林 幸江	12名
10月2日 10:00～ 13:00	◆ 移行期の日本語指導(続き) ／●日本語教材の紹介●演習—小学校教科書の日本語●まとめ①「わかる」ということ②指導上の「工夫」③年少者に対する日本語指導の課題→問題のありか & バイリンガルに学ぶ	東京外国語大学教授 小林 幸江	12名
10月2日 13:45～ 16:45	◆ 子どもの認知・言語発達の過程と発達に応じた学習指導 ／●バイリンガルの多様な類型●バイリンガル児の言語能力の特徴●二言語の習得と年齢●J.カミンズのバイリンガリズムの理論●発達心理	実践女子大学教授 柏崎 秀子	12名

	学の知見から●子どもたちへの支援		
10月9日 10:00～ 13:00	◆意欲的な学習を支援するための留意事項/●動機付け—やる気の心理学●メタ認知①メタ認知とは②学習におけるメタ認知の重要性③メタ認知能力を促すために●不適応行動①発達障害とは②行動観察の視点③子どもたちへの対応策	実践女子大学教授 柏崎 秀子	11名
10月9日 13:45～ 16:45	教案作成と作法と演習<自由選択>/●教案とは何か①システムを成り立たせる3要素②教案の定義③教案作成に用いられる用語、略号、記号④教師研修の進め方●課題に取り組む前に考えるべきこと①多様な学習者を見る視点②渋谷区日本語教室のあるグループの状況と教案の実際●教案作成演習①事例の提示②大まかな方法論を討議する③教案作成個人作業	国際日本語コミュニケーション研究所副理事長 渡邊 晋太郎	7名+1(早退)
10月15日 17:00～ 20:00	見学とレポート作成(1回目)/●渋谷日本語教室の学習者の特徴●グループわけの考え方●見学の視点●見学の手順とマナー●各グループ指導員への紹介●見学の実施●質疑応答●見学レポート作成	国際日本語コミュニケーション研究所理事 渡邊 瑠美 ほか	6名
10月16日 10:00～ 13:00	◆外国人児童の指導例/●初期指導①教材「ひろこさんの たのしい にほんご」1-8の解説①「これ、それ、あれ」の位置関係の理解と表現の指導ポイント②「平仮名の読み方・書き方」指導③かずの読み方指導	元北区袋小学校教諭 手柴 スエ子	11名

<p>10月16日 13:45～ 16:45</p>	<p>●移行期指導/①教材「ひろこさんの たのしいにほんご」2-58 の解説②「存在文」の表現法と場面に応じた適切な表現の指導③位置詞の指導法④漢字学習の方法とポイント⑤飲み物の数え方⑥九九の 8 の段の指導のポイント⑦算数という教科の日本語の文型・語彙・表現の特徴</p>	<p>現・ 小学校教諭 海原佳世子</p>	<p>11 名</p>
<p>10月20日 17:00～ 20:00</p>	<p>見学とレポート作成(2回目)/…10月15日の1回目に同じ)</p>	<p>国際日本語コミュニケーション研究所理事 渡邊 瑠美 ほか</p>	<p>6 名</p>
<p>10月27日 17:00～ 20:00</p>	<p>実習指導とレポート作成(1回目)/●前説:①教材「川とノリオ」について②「比喩法」と「体言止め」の指導のポイント③児童の反応の捉え方と対応④教案の作成指導●実習の実施●反省とレポート作成</p>	<p>元・秋田県山本郡八峰町立八森小学校教諭 伊藤 正子 他</p>	<p>6名</p>
<p>10月29日 17:00～ 20:00</p>	<p>実習指導とレポート作成(2回目)/…10月27日の1回目に同じ)</p>	<p>元・秋田県山本郡八峰町立八森小学校教諭 伊藤 正子 他</p>	<p>6名</p>
<p>11月13日 10:00～ 13:00</p>	<p>◆総合評価会とまとめ/●前説①多言語・多文化社会の条件②外国人児童・生徒の地位③子どもの日本語教育の難しさ④子ども向け日本語教師の養成はどこでも行われていない④発達過程の子どもの教育対象は、日本語の初期指導、移行期指導だけではない⑤生活態度、教科指導、高校入試準備指導をどうするか●グループ討議の進め方●グループ討議●まとめにかえて①学ぶ力とは②言葉の教育と文化の教育③JSLカリキュラム「日本語支援</p>	<p>国際日本語コミュニケーション研究所副理事長 渡邊 晋太郎</p>	<p>12 名</p>

	の5つの視点」		
--	---------	--	--

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート(12人中11人から回収した結果)

5点法(5がベスト)で答えてもらったところ

- a. 研修全体では、81%の人がベストの評価、満足が18%であった。また、この研修が今後役に立つかについては、「5」が80%、「4」が16%で合わせて96%であった。
- b. 科目別の評価では、自由選択科目で実施した「教案作成の作法と演習」が満足度でも、役立つかという点でも100%と高い評価を得た。

理論科目と見学・実習の実践科目を比べると後者の見学・実習の方が評価がたかかった。頭を使い、体を使って参加した科目の方が達成感も大きかったのだろう。

② 実施主体からの研修内容結果評価

- a. カリキュラム・・・教員経験者が受講者という前提で、学習項目を絞り込んだ。これに募集段階に入ってから要望が強かった「教案作成」を自由選択科目として取り込んだものが最終的なカリキュラムとなったが、全体としてバランスのとれたコンパクトなカリキュラムだったと評価する。
- b. 講師・・・第二言語習得の小林先生、認知・発達心理学の柏崎先生は勿論、実践指導や見学・実習を指導した当研究所のリソース・パースンである各指導員とも的確な人選であった。
- c. 研修内容・・・研修の最終セッションである評価会でも異口同音に述べられたのは、充実した見学と実習にあった。講義科目は、全てこの見学と実習に向けて用意されたものだったので、受講者の評価は極めて的を得たものだったし、実施主体としても所期の目的が達成されたと評価する。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

a. 「生活指導」のための日本語導入指導の進め方研修

小学生の日本語支援で最もエネルギーを取られるのは、グループで勉強ができるようにしつける過程だ。母語も良くできない子どもの場合、10分と席に座ってられないほど集中力の無い子や休み時間になると、やたらに館内を駆け巡っては廊下のライトを消したり、非常ベルを鳴らそうとしたりして目が離せない。1日も早く、20～30分は座ってられるようにしたい。指導員との一日も早い信頼関係の構築が必要だ。そのためどんな日本語をどんな方法で入れていくのかについての指導員養成研修を企画・実施したい。

b. 中3対象の「高校入試準備支援セミナー」の実施

民間助成団体も探しながら、上記セミナーを開設したい。中3にとって、高校入試は、極めて難しい。特に中2や中3で日本に来た生徒にとっては、学習言語としての日本語が充分でないだけでなく、歴史や地理といった日本人のこどもが小学校5、6年で習ってきている基礎知識や概念が抜け落ちているのである。日本で生活する以上、せめて高校を出ないと、その後の人生は社会の最末端に張り付くようなことになりやすい。せめて高校入試の支援をしてやりたい。

c. 子どもの日本語教育実践者のための指導法研究講座

学校現場で実践している人も地域の日本語教室実践している人も、教材選び指導法など試行錯誤でやっている部分が多いはずである。今回、わたし達が教員経験者対象につくった研修コースをもうちょっと一般化したものにすれば、学校・地域の実践者に利用してもらえる研修コースになるはずである。是非、実現したい。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携→CATVとの連携の可能性の模索

私たちは前進のNHK放送研修センター時代の「日本語教師養成セミナー」からの経験をあわせると、成人向け研修、ビジネス・ピープル向け研修、子どもの日本語・教科学習支援など多くの実践を積み上げてきた。これらの経験を、こらからの多文化社会の中で有効に生かし、

社会貢献できる分野として CATV との将来の連携を視野に入れたいと考えている。

「放送研究と調査 2010 年 8 月号」(NHK 放送文化研究所)が、「外国人のメディア行動」の調査結果を発表した。それによると、日本語ができる、あまりできないに関わらず、調査対象の外国人の 7～8割が日本語テレビを利用しているという。

動機は、中国・韓国人では、日本の国内の出来事を知るため、ブラジル・フィリピンではスポーツ、音楽、天気予報を見るのが目的だそうだ。日本語のテレビは「生活者としての外国人」の環境になっていることが窺える。それなら、「テレビをもっと楽しむための日本語講座」ができないか考える。外国人の居住地域は、偏っている。全中を前提とする在京キー局では難しくても、外国人人口が 10%、15%という地域では成り立つかも知れない。そこは CATV の世界だろう。とりあえず、アンケート調査からでも実施したいと考えている。

② 研修後の人材活用

今回の研修受講者のうち、2人に私たちの「渋谷区子ども日本語教室」を手伝っていただけるよう契約しました。残る人たちについては、4 月以後の教室の規模によって、考えたいと思っていますが、それとは別に、希望者があれば、渋谷区教育委員会等に紹介の労をとっていきたいと考えています。

(12) 今後の課題

「渋谷区子ども日本語教室」は、2011年 3 月以後、中学生が増えることが見込まれる。外国人の子どもたちにとって一番苦手な国語、地理、歴史、公民の指導時間増えることになりそう。もう一つは、都立の一流高校受験者がでてくること。二つのニーズに答えることが当面の課題となる。

次に、中学生になって来日する子どもたち向けの日本語教材が殆どない。友だちづくりに必要な生活言語から各教科に繋がる文型・語彙を取り込んだ日本語教材が欲しい。教材開発に向けた準備を始めたい。

【講師陣】

小林 幸江：東京外語大教授
柏崎 秀子：実践女子大教授
渡辺晋太郎：WJCI 副理事長
手柴スエ子：元公立小学校教諭
海原佳世子：元公立小学校教諭
ほか

【プログラム】

＜必修科目＞

- 9/25 (土) 10:00～13:00
子どもの教育の現状・課題・
展望
- 9/25 (土) 13:45～16:45
・第二言語としての日本語習得
・移行期の日本語指導 (1)
- 10/02 (土) 10:00～13:00
・移行期の日本語指導 (2)
・演習・教科書研究
- 10/02 (土) 13:45～16:45
子どもの認知・言語発達の過程
と発達に応じた学習指導
- 10/09 (土) 10:00～13:00
意欲的な学習を支援するための
留意事項
- 10/09 (土) 13:45～16:45
子どもの学習支援のコースデ
ザイン (考え方と演習)
- 10/16 (土) 10:00～13:00
外国人児童の指導例
- 10/16 (土) 13:45～16:45
補助教材の作成演習と発表・相
互評価
- 10/23 (土) 10:00～13:00
教案作成の作法と演習
- 11/13 (土) 10:00～13:00
総合評価会とレポートの作成

退職教員及び退職準備教員向け

子どもたちのための日本語指導者養成研修

＜選択必修科目＞

見学と実習については各 2 回の
うち各 1 回に必ず出席のこと。

- 見学とレポート作成(1 回目)
10/15 (金) 17:00～20:00
- 見学とレポート作成(2 回目)
10/20 (水) 17:00～20:00
- 実習(1 回目)
10/27 (水) 17:00～20:00
- 実習(2 回目)
10/29 (金) 17:00～20:00

＜自由選択科目＞…希望者のみ

- 教案作成、模擬実習
10/23 (土) 13:45～16:45

【募集要項】

期 間：9 月 25 日(土)
～11 月 13 日(土)

会 場：文化外国語専門学校 D38

受講料：無料

定 員：10 名

参加資格：退職教員又は退職準備
をされている教員

申し込み締切日：9 月 21 日、但
し定員になり次第締め切ります。

その他：コース全 10 回参加した
方には修了証書を差し上げます

【問い合わせ及び申込み】

NPO 法人国際日本語コミュニケーション
研究所 (WJCI) 事務局

〒151-8521

渋谷区代々木 3-22-1

文化外国語専門学校

第二研究室内

電話：03-5333-6385

FAX：03-5333-6386

メール：wjci@nifty.com

URL www.wjci-nihongo.org